



きんひが通信

令和3年2月15日

〈第41号〉

校長 平塚智康

地域の伝統行事から学ぶ ～御願神事(竹割祭り)～

2月10日(水)、菅生石部神社で「御願神事(竹割祭り)」が行われました。今年はコロナ禍のため密にならないよう、3年生だけが、社会科・総合的な学習の一環として、見学に出かけました。

ちなみに、社会科のねらいは「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事には、地域の生産活動やまちの発展、人々のまとまりなどへの願いがこめられていることを理解し、地域社会に対する誇りと愛情を持つ」ということです。

御願神事(ごんがんしんじ)とは？

石川県指定無形民俗文化財。その起源は、『神社明細帳』によると、天武天皇御願にて宝祚長久 国家安全の神事として始められたとの記述がある。また昔、この地に大蛇がすんでいて、毎年未婚の娘を差し出さねば田畑を荒らしてしまうので、これを退治するためにこの神事が生まれたとの伝承もある。神事は、第一板の合図でワラと竹で出来た高さ3mほどの『あずまや』に点火し、続いて、第二板の合図により神社下で待機していた白装束の青年たちが、長さ2m程の青竹を手に、一斉に関の声を上げて境内になだれ込み、石畳に青竹を打ちつけ割りつくす。青竹がほとんど割られた頃、青年たちは大蛇に見立てた長さ25m、重さ150キロに及ぶ大縄を境内にて引き回し、最後に敷地天神橋の上から大聖寺川に投げ込んで神事が終わる。割られた竹は見物人が持ち帰り、魔除けのため玄関に置いたり、箸にして健康・病気平癒・虫歯予防を願います。



3年 ○○ ○○

ぼくは2月10日に、竹わりまつりにいきました。ぼくは、「あつい男たち」が、竹を2～3回でわっ
ていてすごいとおもいました。1回でわっている人もいて、コロナだから声を出したらダメだったけど、
声が出てしまうくらいすごかったです。「あつい男」の中で、一人おうえんしたい人がいました。それは、
かずよしくんのお父さんです。ぼくは、かずよしくんのお父さんに勇気をわたせるようにおうえんしま
した。
(うらへ続く)

それから、大じゃを川になげるとき、重そうだったけど、「あつい男たち」は全員で協力してもちあげてすごかったです。学校でやってみておもしろかったから、ほくも「あつい男」になってやってみたいです。

3年 〇〇 〇〇

2月10日に竹わりまつりがひらかれました。竹わりまつりは、677年、今から1344年前にはじまり、今まで1回も中止にならなかったと、平石先生に聞きました。そして、校長先生が、「今年は新がたコロナウィルスで、じんじゃの中でみるにんずうがかぎられているのですが、とくべつに、きんじょうひがし小学校の3年生に見ていただきたいと言われました。」と言いました。そして、とうとう竹わりまつりがはじまりました。わたしはドキドキしました。みんな、白いふくを着ていました。白いふくを着た人の中に、2人だけはちまきが赤いことに気づきました。すると、となりのくぼ川さんが「赤いはちまきをしている人はリーダーだよ。」とおしえてくれました。見ているあいだ、黒いはいがたくさんふってきて、目に入って、目がいたくなるし、マスクにけむりがついてずっとくさくてたいへんでした。さいごに、白いふくを着た人が、大なわをだいていっせいに走りだしてびっくりしました。そして、はしの上に立ち、なわを川へなげました。とてもきちょうなたいけんをさせてもらいました。

3年 〇〇 〇〇

ごんがんしんじは、すごくかっこよかった。赤いリーダーがいて、さいしょに竹でちゃんばらみたいなのをしてびっくりした。いちばんさいしょに竹をわるからすごくかっこよかった。そのリーダーがみんなに声をかけていて、やっぱりリーダーだなとおもった。ほくも、その赤い人みたいにがんばってかっこよくなりたいです。ちょっとこわいだいじゃもいました。なんでだいじゃがいるかとか考えてみてソワソワってしました。

ほくも、しょうらいだいじゃとかをたおす人みたいになってみたいです。ごんがんしんじは、1344年もつづいていて、ほんとうにおもしろくてべんきょうになりました。ほくも竹わりまつりにでてみたいです。

3年 〇〇 〇〇

今日、竹わりまつりに行きました。始まったら赤色のはちまきをした人が竹をわって、刀のようにしていました。それがおわると竹をわる人がたくさんきました。

真ん中においてあるわらに火をつけてもやしました。竹をわる人は竹を地面にたたきつけて竹をわっていました。

真ん中のわらからけむりがでてきて、ほくがみているところにきました。けむりはけむくさくて、目の中に入るといたかったです。けむりといっしょにはいもとんできました。

さいごに、わらをだいじゃにみせかけた長いわらを、ぜんいんがもって、神社を走りまわっていました。しばらくすると、大聖寺川に向かって走っていきました。大聖寺川の橋にいくと、だいじゃにみせかけたわらを、大聖寺川に入れました。千三百四十四年間、一度も中止になったことがないおまつりはすごかったです。また、みたいです。



大聖寺に春の訪れを告げる、菅生石部神社の「ごんがん」。長い年月に渡って受け継がれてきたこの伝統行事に直に触れることによって、子どもたちに、行事に込められた地域の人々の願いや思いに気づいてほしいと思います。3年生は、今週にも菅生石部神社を訪れ、宮司さんから御願神事の由来や歴史について詳しく聞き取り、学習を深めていく予定です。

若衆の中には、私が以前受け持った子どもたちもいました。彼らが地域の伝統文化を受け継いでがんばっている姿を見て、とてもうれしく思いました。そして、今の3年生の中からも、この伝統文化を受け継いでいく後継者が出てきそうで、とてもたのもしく感じました。